

(裁決) 行決 覽 回 後	長(部)局	帶	連	局長(部)局	兵務	執行指定	次官	決裁指定	十年	保存期限	件名	番受
												領號
							大臣				南洋群島ニ於ケル戒嚴及徵發ニ關スル件	壹第六一九號
							政務次官					
							參與官					
							高級副官					
							主務官					
							副官					
							書記官					
							局長務主					
							課務主					
							員課務主					
							大官					
							房官					
							了結					
							昭					
							和					
							年					
							昭					
							和					
							年					
							昭					
							和					
							年					
							昭					
							和					
							年					
							昭					
							和					
							年					

政務官 書記官 回付(執行前)

(執行後)

拾年保

起元廳(課名)

海軍省

審案 筆記者

海軍省 16.12.3 第676號 兵備課

陸

陸軍省 16.12.-2 軍事課

局長務主 官副級高 官與參

課務主 副官 主務

員課務主

房官臣大 課局務主

了結領受 出提領受 號番

昭 昭 昭 昭  
和 和 和 和  
年 年 年 年

軍事省 第二二號

兵備營

兵務

委

引

引

真田

真田

引

引

引

引

大臣ヨリ海軍大臣宛回答案

(陸密)

十二月一日附官房機密第一〇三五八號ノ三ヲ以テ通  
報ニ係ル首題ノ件勅令案内内容ニ關シテハ  
異議ナキモ南洋ニ憲兵ヲ派遣シアルヲ以  
テ副書大臣ニ陸軍大臣ヲモ押入スル如ク  
御考究相煩シ度回答ス

機密第三七六三號

昭和拾六年三月六日



大臣

官房機密第一〇三五八號ノ三

昭和十六年十二月一日

陸軍大臣 東條英機 殿

海軍大臣 嶋田 繁太郎

南洋群島ニ於ケル戒嚴及徵發ニ關スル件通報  
首題ノ件ニ關シ別紙ノ通請議致候條了知相成度  
(別紙四葉添)

(終)

海軍

陸軍省 16.12.1 課

(子カセトナリ)

佐

附

昭和十六年十二月一日 海軍省 副官

本件ハ時局進展ノ際公布スベキ手配ノ

勅令案  
内容ニ関シテハ異議ナキモ南洋ニ  
憲兵中隊派遣シテ之ヲ以テ陸軍  
本部別部ニシテ之ヲ要トセザルニ  
事非ズ。遺漏ナキ事ヲ要ス。本  
所考定如焼ハシテ同答ス

大臣

官房機密第一〇三五八號ノ三

昭和十六年十二月一日

陸軍大臣 東條英機 殿

海軍大臣 嶋田繁太郎

南洋群島ニ於ケル戒嚴及徵發ニ關スル件通報

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通請議致候條了知相成度

(別紙四葉添)



(才力セトヤ勝)

佐

Handwritten text on a separate sheet of paper, likely the '別紙' mentioned in the main document.

紙 箋 附

昭和十六年十二月一日 海軍省 副官

本件ハ時局進展ノ際公布スベキ手配ノ  
モノニ付申添候



官房機密第一〇三五八號

昭和十六年十一月十日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

拓務大臣 東郷 茂徳

内閣總理大臣 東條 英機 殿

南洋群島ニ於ケル戒嚴及徵發ニ關スル件請議

南洋群島ニ於ケル戒嚴及徵發ニ關スル件制定ノ必要ヲ認メ別紙勅令案  
及理由書ヲ具シ閣議ヲ請フ

(別紙添)

(終)

(森市納)

海軍

主務者

海軍省軍務局

海軍中佐 大副 敏一

朕南洋群島ニ於ケル戒嚴及徴發ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和 年 月 日

内閣總理大臣  
海軍大臣  
拓務大臣

(森市納)

海軍

勅令第

號

南洋群島ニ於ケル戒嚴及徵發ニ關シテハ戒嚴令、徵發令及徵發事務條例ニ依ル但シ徵發令及徵發事務條例中行政區劃、行政官廳及公署並ニ徵發事務條例中評價委員ノ旅費日當ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(森市納)

理由

南洋群島ニ於ケル戒嚴及徵發ニ關スル規定ヲ制定スルノ要アルニ依ル

(森市納)



十月十日

軍務

極秘

檢印

第一〇〇

山崎

米二極秘合第四四七三號

昭和十六年十二月一日

手紙

陸軍次官殿

本文保存

巴奈馬在留邦人壓迫問題ニ關スル件

本件ニ關シ今般在巴奈馬秋山公使ヨリ別添寫ノ通り電報越セルニ付御參考迄右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、海軍省、大藏省、拓務省

陸軍省  
16.12.2.  
1837  
軍務課

海軍省  
16.12.2.  
海軍大臣官房

外務次

別紙添附

官

外務省

第一一號

保存期限 三年  
決裁指定  
局長委任

拾年保

大臣 委		政務次官 次官		參與官		書記官		審案 筆記者	
局長 主務局長		高級副官		主務副官 官房御用掛		主務課員		主務課員	
防衛甲第六三五號		起元應(課)名		鐵道省		鐵道省		鐵道省	
受領 昭和十六年十二月		受領 昭和十六年十二月		受領 昭和十六年十二月		受領 昭和十六年十二月		受領 昭和十六年十二月	
提出 昭和十六年三月八日		提出 昭和十六年三月八日		提出 昭和十六年三月八日		提出 昭和十六年三月八日		提出 昭和十六年三月八日	
了結 昭和十六年三月八日		了結 昭和十六年三月八日		了結 昭和十六年三月八日		了結 昭和十六年三月八日		了結 昭和十六年三月八日	
房官區大		課局務主		連帶		決行(決裁)後 回覽		決行(決裁)後 回覽	
局長		局長		局長		局長		局長	
長課		長課		長課		長課		長課	

軍用資源秘密保護法ノ立入、模寫、錄取ニ関スル件

卷第之三四八佛

陸軍

陸密

大臣ヨリ鉄道大臣へ回答

十二月 六日附鉄軍秋第三一八號ヲ以テ協同ニ係ル首魁ノ件  
管方ニ於テハ貴件ニ承認相成蓋支無之此段及回答候

陸密第三八〇〇號

昭和拾六年三月八日



秘

鐵軍秘第三一八號

昭和十六年十二月六日

鐵軍秘第三一八號

16.12.8.  
陸軍大臣

鐵道大臣 八田 嘉

明

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

(連名各通)

海軍大臣 嶋 田 繁 太 郎 殿

軍用資源秘密保護法ノ立入、模寫、錄取ニ關シ東部第八十七部隊  
長ヨリ別紙承認申請有之候處當方支障無之ニ付東京鐵道局長ニ對  
スル開示ヲ含メ併セ承認ノコトト致度此段及協議候

鐵軍祕第三一八號 添付物

東八七材第三六號

立入竝模寫錄取承認願

千葉縣千葉郡津田沼町

東部第八十七部隊長 猿谷 小五郎

昭和十六年十一月二十七日

鐵道大臣 寺島 健 殿

左記ノ通り立入竝模寫錄取致度ニ付承認相成度候也

左 記

一 目的 工場業務一般ニ付特ニ機關車客貨車ノ修繕ノ概要ヲ實習修得セシム

二 工場事業場其ノ他設備ノ所在地及名稱  
埼玉縣北足立郡大宮町東京鐵道局 大宮鐵道工場

鐵道 官

三區 域 機關車職場及工機職場  
四日 時 昭和十六年自十二月二十七日至十二月二十七日

五方 法 實習修得

六使用器具ノ名稱 ナシ

七實習者 陸軍少尉 浦野博夫

八作業ノ場所 機關車職場

九成果物ノ員數及其ノ用途

時業兵教育參考資料

十其ノ他參考トナルヘキ事項

右職場以外ニ機關車客貨車修繕ニ關係アル職場ニ立入  
ル  
其ノ他ナシ

第一二二號

保存期限  
三年

三年

決裁指定

局長委任

決行指定

事務次官  
參與官  
回付  
決裁前後  
連帶  
課名

受番  
號  
第一五二八

件名  
學校教職員ノ著書竝ニ論文ノ報告ニ關スル件

決行(決裁)後  
同覽課名

起元應(課)名

教育局



陸軍

大臣委

次官  
政務  
次官

委

參與官

高級  
副官

書記官

主務  
副官

審案  
筆記者

主務  
課員

主務  
課長

主務  
課員



大官	官房	大臣	主務	局長
了結	領受	提出	領受	號番
昭和 二月十日	昭和 二月十日	昭和 十月十日	昭和 十月十日	第一五二八

決行(決裁)後  
同覽

局長

局長

課長

課長

(陸普) 副官ヨリ教育總監部庶務課長宛通牒案

首題ノ件別紙ノ通依頼アリタルニ付可然取計相成度依命通牒ス

陸普第七六〇〇號

昭和拾六年拾月拾壹日



陸普第七六〇〇號	副官ヨリ	教育總監部	庶務課長	宛	通牒案
首題ノ件	別紙ノ通	依頼アリ	タルニ付	可然取計	相成度
依命通牒	ス				

三年





陸軍

發企一九號

昭和十六年十月七日

教 學 局 長 官

陸 軍 次 官 殿

學校教職員ノ著書竝ニ論文ノ報告ニ關スル件

本局設置ノ日本諸學振興委員會ノ學會運營參考ノ爲教職員著書竝ニ論文目錄編纂致度ニ付テハ貴管下大學高等專門學校ニ於ケル教育學、地理學ノ擔任教職員（教授、助教授、助手、講師等）ノ著書竝ニ論文ヲ昭和十六年六月十日付發企十號ノ記載様式ニヨリ取纏メ來ル十一月三十日迄ニ御回報相煩度此段及御依頼

様式(一)

著書ニ關スル報告

(學校名)

氏名	官職名	學位	學擔科任	著書名	頁型數體	發行所	年發行月	備考

様式(二)

論文ニ關スル報告

(學校名)

氏名	官職名	學位	學擔科任	論文名	掲載誌紙名	發行年月及號數	備考

注意 1. 著書ハ既刊ノモノ全部記載ノコト

2. 論文ハ昭和十三年一月以降昭和十六年八月迄ヲ記載ノコト

3. 共著ハ其ノ旨明記ノコト



# 大 日 本 帝 國 政 府

(別紙)

様式(一)

著書ニ關スル報告

(學校名)

	氏名	官職名學位	擔任學科	著書名	型體 頁數	發行所	發行 年月	備考

様式(二)

論文ニ關スル報告

(學校名)

	氏名	官職名學位	擔任學科	論文名	掲載誌(紙名)	發行年月 卷及號數	備考

注意 1. 著書ハ既刊ノモノ全部記載ノコト

2. 論文ハ昭和十三年一月以降昭和十六年八月迄ヲ記載ノ

コト

3. 共著ハ其ノ旨明記ノコト

保存期限 三年  
 決裁指定 厚長任  
 決行指定

政務大官 回付 決裁後連帶  
 參與官 課名

受領番號 壹受第 五二二八

起元廳課名 啟

厚 局

件名 厚校教職員著書並ニ論文ノ報告ニ関スル件

大臣

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

官房御用掛

主務課員

筆記者 藤卷

藤卷

主務局長 昭和三十九年八月  
 局長 昭和三十九年八月  
 課長 昭和三十九年八月

連帶局長 昭和三十九年八月  
 局長 昭和三十九年八月  
 課長 昭和三十九年八月

主務課長 昭和三十九年八月  
 課長 昭和三十九年八月  
 課長 昭和三十九年八月

陸軍

陸軍省 16.12.3 午前 主計課



寫

日 壹月五二二八  
松本

發企一九號

昭和十六年十月七日

教 學 局 長 官

陸 軍 次 官 殿

學校教職員ノ著書並ニ論文ノ報告ニ關スル件

本局設置ノ日本諸學振興委員會ノ學會運營參考ノ爲教職員著書並ニ論文目錄編纂致度ニ付テハ貴管下大學高等專門學校ニ於ケル教育學、地理學ノ擔任教職員（教授、助教授、助手、講師等）ノ著書並ニ論文ヲ昭和十六年六月十日付發企十號ノ記載様式ニヨリ取纏メ來ル十一月三十日迄ニ御回報相煩度此段及御依頼

陸

陸軍省  
16.11  
前  
軍

様式(一) 著書ニ關スル報告 (學校名)

氏名	官職名	學位	學擔科任	著書名	型體	發行所	發行年月	備考

様式(二) 論文ニ關スル報告 (學校名)

氏名	官職名	學位	學擔科任	論文名	掲載誌紙名	發行年月	備考

- 注意
1. 著書ハ既刊ノモノ全部記載ノコト
  2. 論文ハ昭和十三年一月以降昭和十六年八月迄ヲ記載ノコト
  3. 共著ハ其ノ旨明記ノコト



著書ニ關スル報告 陸軍經理學校

岩田孝三		氏名
陸軍教授		官職名
學士		學位
地理		學科
地政學	國境政治地理	著書名
A・二二〇頁	菊四七版	型體
朝日新聞社	東學社	發行所
昭一六、一一	昭一三、七	發行年月
		備考

論文ニ關スル報告

陸軍經理學校

岩田孝三				氏名
陸軍教授				官職名
學士				學位
地理				擔任學科
政治地理學と戰	綜合國土計畫と地政學	國防地理學に就て	政治地理學と地政學との關係	論文名
政界往來誌	技術評論	同	地理教育誌	掲載誌(紙)名
昭一五、九	昭一五、一〇	昭一五、六七	昭一三、五	發行年 及號數 月
				備考

譯書ニ關スル報告

陸軍經理學校

岩田孝三		氏名
陸軍教授		官職名
學士		學位
地理		學擔科任
資 源 戰 争 政 學	支那 土地 利用 地圖 集	譯 書 名
		頁型 數體
新誠 光文 社堂	東 學 社	發 行 所
昭一六、六	昭一三、九	發 行 年 月 備
		考

三月十日

第二三號

工務  
勝

監查  
車

普第一一三號

昭和十六年九月十一日

會計検査院長 岡

今朝

雄  
監  
査  
院  
印

陸軍大臣 東條 英機 殿

共済組合收支計算書ノ検査ニ関スル件

陸軍次官阿南惟幾ノ證明ニ係ル昭和十四年度自昭和十四年三月至昭和十五年四月陸軍共済組合收支計算書ノ検査ヲ遂ケ正當ト決定候條此段及通牒候也

和洋保

第四七四號

昭和十六年九月十一日  
16.9.12

16.9.16  
工政課

陸軍省  
16.9.12  
監査課

保存期限 三年  
決裁指定  
局長 委任  
決行指定

拾年保

大臣官房 受領 昭和拾年三月拾壹日 大田 〇八 回答 局長	主務局長 防衛甲第六三八號 昭和三十八年十一月二七日 三月拾壹日 大田 〇八 回答 局長	大臣 劉委 劉委 局長 主務局長	次官 委 副官 主務課長	政務次官 參典官 書記官 審案 書記者	件名 軍用資源秘密保護法ノ撮影ニ関スル件	受領 壹第六〇四八號 起元廳(課)名 鐵道省	政務次官 回付 決裁前後連帶 決行決裁後 回覽課名
---	---	------------------------------	-----------------------	---------------------------------	-------------------------	---------------------------------	------------------------------------

陸軍

陸密

大臣ヨリ鉄道大臣へ回答

十一月二十六日附録軍秋第三〇八號ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ件  
會方ニ於テハ貴條件ニテ許可相成差支無之此段及回答候

陸密第三八三六號

昭和拾六年三月拾壹日

陸密

副官ヨリ津輕要塞司令官へ通牒

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通協議アリタル處許可シ  
差支無キ旨回答セラレタルニ付承知相成度

陸密第三八三六號

昭和拾六年三月拾壹日

陸密第六〇四八號

陸密

陸密

三手

無異

陸密



陸軍省 第一〇八號

鐵軍秘第三〇八號

昭和十六年十一月廿六日



鐵道大臣 寺島

健

陸軍大臣 東條英機 殿

海軍大臣 嶋田繁太郎 殿

(連名各通)

軍用資源秘密保護法ノ撮影ニ關シ別紙願出有之候處左記條件ヲ附  
スルニ於テハ支障無キモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協  
議候

記

許可條件

一、努メテ構内施設物ヲ撮影セザルコト



三、撮影ノ成果物ハ其ノ公開以前ニ於テ札幌鐵道局長ノ檢閲ヲ經ルコト

前項ノ檢閲ヲ受ケタルモノハ其ノ公開ノ際「鐵道省檢閲済」ト表示スルコト

三、右成果物ニシテ公開不適當ト認メラルモノアルトキハ之ヲ沒收ス

東京府川口

昭和十一年十一月

局長大庭 鐵道省  
局長大庭 鐵道省





在

撮影許可願

本籍 栃木縣芳賀郡物部町字鹿

住所 北海道函館市本町一丁目一番地

職業 北海タイムズ社函館支社

代表者 菊地 吉治郎



(四十六歳)

昭和十六年

鉄道大臣

十月二十五日  
特命者 藏殿

左記通り撮影致度ニ付許可相成度候也

記

一、目的 新聞掲載ノタメ

二、工場事業場其他ノ設備ノ所在地及名稱

函館市若松町函館駅

三. 区域 函館駅構内

四. 期間 自昭和十六年八月一日 至 昭和十七年三月

三十一日

五. 方法 撮影

六. 使用器具ノ名稱 二ツクランプ、セミイコクタ

七. 作業者ノ住所、姓名及年齢

函館市千歳町ニ番地ノ三 宮川正彦 (三十五歳)

同 市銀治町一七番地 岡田 潔 (三十二歳)

八. 作業場所 函館市辨天町ニ三番地 北海タイムス

社区館支社

九. 掲載図書 北海タイムス

別紙

陸軍

鐵軍秩第三〇八號

昭和十六年十一月二十六日

鐵道大臣 寺島健

陸軍大臣 東條英機 殿

(連名各通)

海軍大臣 嶋田繁太郎 殿

軍用資源秘密保護法ノ撮影ニ関シ別紙願出有之候處左記條件ヲ附スルニ於テハ支障無キモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協議候

記

許可條件

- 一、努メテ構内施設物ヲ撮影セサルコト
- 二、撮影ノ成果物ハ其ノ公開以前ニ於テ札幌鐵道局長ノ檢閲ヲ經ルコト

前項ノ檢閲ヲ受ケタルモノハ其ノ公開ノ際「鐵道省  
檢閲漆」ト表示スルコト

三、右成果物ニシテ公開不適當ト認めラルルモノアルトキ  
ハ之ヲ沒收ス

三

陸軍

撮影許可願

本籍 枋木縣芳賀郡物部村字鹿  
住所 北海道函館市本町一八番地  
職業 北海タイムス社函館支社

代表者 菊地吉治郎

(四十六歳)

昭和十六年三月二十五日

鐵道大臣 寺島健殿

左記ノ通り撮影致度ニ付許可相成度候也

記

一、目的 新聞紙掲載ノタメ

二、工場、事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱

函館市若松町函館駅

三、區域 函館駅構内

四、期間 自昭和十六年八月一日 至昭和十七年三月三十一日

五、方法 撮影

六、使用器具ノ名稱 ニコウクラップ・セミイコング

七、作業者ノ住所、氏名及年齢

函館市千歳町二番地ノ一 宮川正彦 (二十五歳)

同 市鍛冶町二七番地 岡田 潔 (二十二歳)

八、作業ノ場所 函館市辨天町二三番地 北海タイムス

社函館支社

九、掲載圖書 北海タイムス

恩賞

重要

閣

拾年保

陸軍省 領 壹第 方。三。一 號

昭和十六年十一月二十五日

官房機密第一〇八九四號ノ二

昭和十六年十一月二十二日

陸軍省 副官 殿

海軍省 副官

賞第九一號 昭和十六年十一月廿五日

陸軍ニ勤務ノ海軍軍人ニ對スル年末賞與支給ニ  
關スル件通知

海軍軍人ニシテ支那事變ニ關シ陸軍ノ勤務ニ從事セシメラレタルモノ  
ニ對スル今回ノ年末賞與ハ陸軍ニ於ケル勤務日數ヲ通算シ算出シタル  
金額ヲ海軍ニ於テ支給スルコトニ定メラレ候條了知相成度

(終)

海軍

第一二六號

執行指定



決裁指定

十年

保存期限

拾年保

房官臣大		課局務主		大臣		件番受 名號領	政務次官 回附 決裁 前連帶 後課名 燃料課	政務 次官 政務 次官	參與官 高級 副官	起元廳(課)名 航空局	執行(決裁)後 回覽 課名
了結	領受	出提	領受	號番	大臣						
昭和 年 十二月十五日	昭和 年 十二月十五日	昭和 拾年 五月拾日	昭和 年 月 日	航本發第九七四號	委	工チールフルード委託調辦ニ関スル件			秋山	航空局	
(裁決)行決 覽回後		帶連		本部長		次官		高級 副官		書記官	
局長	局長	局長	局長	部長	部長	次官		高級 副官		審案 筆記者	
課長	課長	課長	課長	部長	部長	次官		高級 副官		審案 筆記者	
課長	課長	課長	課長	部長	部長	次官		高級 副官		審案 筆記者	
課長	課長	課長	課長	部長	部長	次官		高級 副官		審案 筆記者	
課長	課長	課長	課長	部長	部長	次官		高級 副官		審案 筆記者	
課長	課長	課長	課長	部長	部長	次官		高級 副官		審案 筆記者	

陸軍



陸  
普

副官ヨリ航空局長官へ

通牒

十月二十二日附空總第ニ七八號ニ係ル首題ノ件  
陸軍航空本部長ヲシテ可然取計ハシメラルニ  
付承知相成度

陸普第九〇八九號

昭和拾六年三月拾貳日

陸  
普

副官ヨリ陸軍航空本部長へ 通牒

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通航空局長官ヨリ願  
出アリタルニ付貴部ニ於テ可然取計ハシ度依  
命通牒ス

陸普第九〇八九號

昭和拾六年三月拾貳日



着取	帶	連	務	主刀用	長部	長部公
				局		

大日本帝國政府

陸軍航空本部皆元中佐經由



空總第二〇七八號

陸軍次官殿

陸軍航空本部



六年十月二十二日

空局長官



1117号

エチール、フルード委託調辨ニ關スル件

右ニ關シ本年四月十四日附空總第五五九號ニ依リ委託調辨方御依頼候本件物資ノ數量三〇〇立ヲ六〇〇立ニ訂正ノ上同四月二十八日附空總第六九四號ニ依リ陸軍航空本廠ヨリ一時借用致候六〇〇立ノ分ヲ前記調辨ニ依リ返濟整理致度候條可然御取計相煩度此段及御依頼候

追而本件ニ關シテハ陸軍航空本廠ト内協議濟ニ付爲念申添候

記

# 大日本帝國政府

一、品目及數量  
二、現品納入場所  
三、經費支辨

エチル、フルード 六〇〇立  
陸軍航空廠立川支廠熊川倉庫  
航空局

陸軍航空本部皆元中佐經由

官房控 陸軍

空總第二〇七八號

昭和十六年十月二十二日

航空局長官

陸軍次官殿

エチール、フルード委託調辨ニ關スル件

右ニ關シ本年四月十四日附空總第五五九號ニ依リ委託調辨方御依頼候本件物資ノ數量三〇〇〇立チ六〇〇立ニ訂正ノ上同四月二十八日附空總第六九四號ニ依リ陸軍航空本廠ヨリ一時借用致候六〇〇立ノ分チ前記調辨ニ依リ返済整理致度候條可然御取計相煩度此段及御依頼候

一 廻テ本件ニ關シテハ陸軍航空本廠ト内協議濟ニ付爲念申添候

一 品目式樣等 記 六〇〇立

一、品目及數量  
一、現品納入場所  
一、經費支辨

エチル、フルード 六〇〇立  
陸軍航空廠立川支廠熊川倉庫  
航空局

十二月十七日

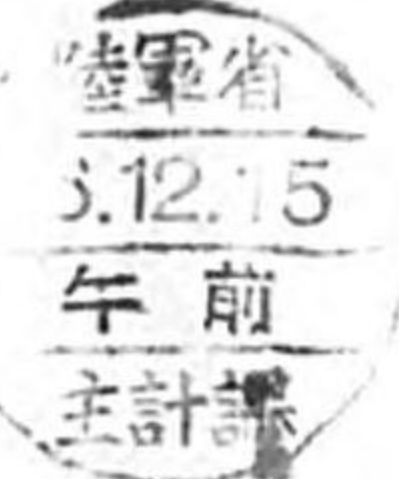
大日本帝國政府

藏計第一五五六號

昭和十六年十二月十日

拾年保

壹第



大藏大臣 賀屋 興

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

昭和十七年度歳入概算通達ノ件

貴省主管昭和十七年度歳入概算別紙ノ通閣議決定相成候ニ付十二月十五日迄ニ歳入豫定計算書並明細書御提出相成度此段及通達候也



# 大日本帝國政府

昭和十七年度歲入概算

陸軍省主管

項 目	金 額	備 考
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>歲入經常部</p> <p>官業及官有財產收入</p> <p>陸軍製絨廠益金</p> <p>官有物貸下料</p> <p>雜 收</p> <p>辨償及違約金</p> <p>恩給法納金</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>陸軍製絨廠益金</p> <p>地所貸下料</p> <p>建物貸下料</p> <p>收入</p> <p>辨償金</p> <p>違約金</p> </div> </div>	<p>一八九六〇六</p> <p>五八二六</p> <p>一八三七八〇</p> <p>八四八四一</p> <p>九八九三九</p> <p>一、一八三、八五六</p> <p>三、一三、八八〇</p> <p>二、八六九</p> <p>一一</p> <p>一、一六、二七三六</p>	

# 大日本帝國政府

雜		入			
	文官納金	武官納金	警察監獄職員納金	國庫以外經濟納金	
	一五九八四六	1,000,141	二,五三四	二〇五	一八二五〇
				六一九八	一〇〇
				一時恩給返還金	一,一九五二
				返納金	一,三七三,四六二
				雜收	九八〇,五五六
歲入經常部合計					三,三五四〇一八
歲入臨時部					
官有物拂下代					
物品拂下代					
歲入總計					





陸密

大臣ヨリ鉄道大臣へ回答

十一月二十七日附録軍政第三。九號ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ件  
會方ニ於テハ費條件ニテ許可相成差支無之此段及回答候

陸密第三八六一號

昭和拾六年三月拾六日

陸密

副官ヨリ陸軍運輸部長へ通牒

首題ノ件ニ関シ別紙寫ノ通協議アリタル處許可シ  
差支無キ旨回答セラレタルニ付承知相成度

陸密第三八六一號

昭和拾六年三月拾六日



三本

# 寫

## 別紙

鐵軍祕第三〇九號

昭和十六年十一月廿六日

鐵道大臣 寺島

健

陸軍大臣 東條英機 殿

(連名各通)

海軍大臣 嶋田繁太郎 殿

軍用資源祕密保護法ノ撮影ニ關シ別紙願出有之候處左記條件ヲ附ス  
ルニ於テハ支障無キモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協議候

記

許可條件

一、努メテ構内施設物ヲ撮影セザルコト

二、撮影ノ成果物ハ其ノ公開以前ニ於テ廣島鐵道局長ノ檢閲ヲ經ル

コト

同條ノ規定ヲ受カズルモノハ其ノ公開ノ際一應注意スルコト

陸軍

寫

前項ノ檢閲ヲ受ケタルモノハ其ノ公開ノ際「鐵道省檢閲済」ト表示スルコト

三、右成果物ニシテ公開不適當ト認メラルルモノアルトキハ之ヲ没收ス

此ノ三ノハ交際部ナリトシテ、其ノ公開ノ際「鐵道省檢閲済」ト表示スルコトヲ要ス。又、其ノ公開ノ際「鐵道省檢閲済」ト表示スルコトヲ要ス。

鐵道省檢閲済  
鐵道省檢閲済  
鐵道省檢閲済

鐵道省檢閲済

鐵道省檢閲済

鐵道省檢閲済

鐵道省檢閲済

鐵道省檢閲済

鐵道省檢閲済

陸軍

立入撮影許可願

本籍 廣島縣廣島市段原中町四一七

住所 同 右

職業 中國新聞社寫真班

氏名 谷川長次

大正十三年三月廿三日生

昭和十六年十一月十八日

鐵道大臣 寺嶋健殿

左記ノ通立入撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的 中國新聞掲載

一、工場、事業場其他ノ設備ノ所在地名稱 廣島市松原町廣島驛

一、區	廣島縣構内
一、日	自昭和十六年十一月廿二日 至昭和十七年十一月廿一日
一、方	普通寫眞機ヲ使用スル局部撮影 手札型ミニマム、バルモス
一、使用機具ノ名稱	廣島市段原中町四一七 谷川長次
一、作業者ノ住所 氏名、年、齡	現像場所 中國新聞社寫眞室内 十八才
一、作業ノ場所	一ヶ年約百枚 中國新聞掲載
一、員數及ビ其用途	ナシ
一、其ノ他	

陸軍

立入撮影許可願

本籍 廣島縣廣島市白島中町六八ノ二

住所 同 右

職業 中國新聞社 寫真班

氏名 横畑 佐敏

大正五年一月九日生

昭和十六年十一月十八日

鐵道大臣 寺 嶋 健白殿中 四六八ノ二

左記ノ通立入撮影致度ニ付許可相成度候也

目 的 中國新聞掲載 十一月廿一日

工場、事業場其他ノ設備ノ所在地名稱 廣島市松原町廣島驛

一 區 域

廣 島 縣 構 內

一 日 時

自昭和十六年十一月廿二日  
至昭和十七年十一月廿一日

一 方 法

普通寫眞機ヲ使用スル局部撮影

一 使用機具ノ名稱

手札型ミニマム、バルモス

一 作業者ノ住所

廣島市白島中町六八ノ二  
横 畑 佐 敏 二十七才

一 作業ノ場所

現像場所 中國新聞社寫眞室內

一 員數及ビ其用途

一ヶ年約百枚 中國新聞掲載  
大正五年一月廿日坐

一 其 他

ナ シ 五 三 九 四 五 六

廣島新聞社  
白島中町六八ノ二

到 軍



陸軍

立入撮影許可願

本籍 廣島縣廣島市段原日出町二四一  
住所 同 右

職業 中國新聞社寫真眞班

氏名 藤田 忠一

明治三十七年二月一日生

昭和十六年十一月十八日

鐵道大臣 寺嶋 健殿 三十八下

左記ノ通立入撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

目的 中國新聞掲載

工場、事業場其他ノ設備ノ所在地名稱 廣島市松原町廣島驛

一、區 域

廣 島 縣 內

一、日 時

自昭和十六年十一月廿二日  
至昭和十七年十一月廿二日

一、方 法

普通寫眞機ヲ使用スル局部撮影

一、使用機具ノ名稱

手札型ミニマム、バルモス

一、作業者ノ住所

廣島市段原日出町二四一  
藤 田 忠 一 三十八才

一、作業ノ場所

現像場所 中國新聞社寫眞室內

一、員數及ビ其用途

一ヶ年約百枚 中國新聞掲載

一、其 他

ナ シ

寫 眞 機 類 檢 査 報 告 書

廣島縣 廣島市 段原日出町二四一  
中國新聞社寫眞室

製 軍

陸軍

立入撮影許可願

本籍 廣島市鶴見本町五二四

住所 同右

職業 中國新聞社寫真班

其 氏名 藤井隆雄

大正十一年三月二十六日生

一 員 鐵道大臣 寺 嶋 實 衛 驥 本 四 五 二 四

一 員 鐵道大臣 寺 嶋 實 衛 驥 本 四 五 二 四 號 二十

一 員 鐵道大臣 寺 嶋 實 衛 驥 本 四 五 二 四

左記ノ通立入撮影致度 一付許可相成度候也

左

一 日 至 記 十 一 月 廿 一 日 中 國 新 聞 社 撰 載 日 廿 二 日

工場、事業場其他ノ設備ノ所在地名稱 廣島市松原町廣島驛

一、區	廣島 驛構 内
一、日	自昭和十六年十一月廿二日 至昭和十七年十一月廿一日
一、方	普通寫眞機ヲ使用スル局部撮影 手札型ニニマム、バルモス
一、使用機具ノ名稱	廣島市鶴見本町五二四 藤井 隆 雄 二十才
一、作業者ノ住所	現像場所 中國新聞社寫眞室内
一、作業ノ場所	一ヶ年約百枚 中國新聞掲載
一、員數及ビ其用途	
一、其ノ他	ナシ



受陸軍省  
No. 1000

鐵軍秘第三〇九號

昭和十六年十一月廿六日



鐵道大臣 寺島

陸軍大臣 東條英機 殿

海軍大臣 嶋田繁太郎 殿

(通名各通)

軍用資源秘密保護法ノ攝影ニ關シ別紙願出有之候處左記條件ヲ附  
スルニ於テハ支障無キモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協  
議候

記

許可條件

一、勢ノテ構内施設物ヲ攝影セザルコト



三、撮影ノ成果物ハ其ノ公開以前ニ於テ廣島鐵道局長ノ檢閲ヲ經ルコト

前項ノ檢閲ヲ受ケタルモノハ其ノ公開ノ際「鐵道省檢閲済」ト表示スルコト

三、右成果物ニシテ公開不適當ト認メラルルモノアルトキハ之ヲ没收ス

廣島鐵道局長ノ檢閲ヲ經ルコト  
鐵道省檢閲済  
昭和二十一年一月一日

陸

立入撮影許可願

本籍 廣島県廣島市段原中町四七

住所 全 右

職業 中國新聞社寫真班

氏名

谷川長次 

大正十三年三月廿三日生

昭和十六年十一月十八日

鐵道大臣 寺島健 殿

左記ノ通立入撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的  
二、區

中國新聞掲載  
廣島市松原町廣島駅  
廣島驛構内

一、日時

自昭和十六年十一月廿二日  
至昭和十七年十一月廿一日

一、方法

普通寫真機ヲ使用スル局部撮影

一、使用機具  
名稱

手札型 ミニマム、パルモス

一、作業者  
住所氏名年齢

廣島市段原中町四七 谷川長次十八才

一、作業ノ場所

現像場所 中國新聞社寫真室内

一、員數及用途

一ヶ年約百枚 中國新聞掲載

一、其ノ他

ナシ



立入撮影許可願

本籍 廣島縣廣島市白島中町三六二

住所 同上

職業 中國新聞社寫真班

氏名

横畑依敏

大正五年一月九日生

昭和十六年十一月十八日

鐵道大臣 寺島 健 殿

左記ノ通立入撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的  
工場事務の整理  
業務の促進  
一、區域

中國新聞掲載  
廣島市松原町廣島驛  
廣島驛構内

一、日時

自昭和十七年十一月廿二日  
至昭和十七年十一月廿一日

一、方法

普通寫真機ヲ使用スル局部撮影

一、使用機具  
ノ名稱

手札型 ミニマム、パルモス

一、作業者  
住所氏名年齢

廣島市白島中野六三 横畑依敏 二十七才

一、作業ノ場所

現像場所 中國新聞社寫真室内

一、員數及用途

一ヶ年約百枚 中國新聞掲載

一、其ノ他

なし

立入撮影許可願

本籍 廣島縣廣島市段原日出町二丁目

住所 同上

職業 中國新聞社寫真班

氏名

藤田忠一



昭和十七年十一月十八日

明治三十七年二月一日生

鐵道大臣 寺島健殿

左記ノ通立入撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

中國新聞掲載

廣島市松原町廣島駅

廣島驛構内

自昭和十七年十一月廿二日  
至昭和十七年十一月廿一日

普通寫真機ヲ使用スル局部撮影

手札型 ミニマム、パルモス

廣島市段原日町二四二藤田忠一三十八才

現像場所 中國新聞社寫真室内

一ヶ年約百枚 中國新聞掲載

ヤシ

- 一、目的
- 一、區域
- 一、日時
- 一、方法
- 一、使用機具
- 一、作業者ノ住所氏名年齢
- 一、作業ノ場所
- 一、員數及用途
- 一、其ノ他

立入禁止

立入撮影許可願

本籍 廣島市鷺見本町五二四

住所 全右

職業 中國新聞社寫真班

氏名

藤井隆雄



大正十一年三月二十六日生

昭和十六年十一月十八日

鐵道大臣 寺島 健 殿

左記ノ通立入撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

中國新聞掲載

廣島市松原町 廣島驛

廣島驛構内

自昭和十六年十一月廿二日  
至昭和十七年十一月廿一日

普通寫真機ヲ使用スル局部撮影

手札型 ミニマム、パルモス

廣島市鶴見本町五番ノ藤井隆雄 二十九

現像場所 中國新聞社寫真室内

一ヶ年約百枚 中國新聞掲載

十、し

- 一、目的  
工場、事業場等、他、  
設備、所在地、名称、  
区域
- 一、日時
- 一、方法
- 一、使用機具  
名稱
- 一、作業者  
住所、氏名、年齢
- 一、作業ノ場所
- 一、員數及用途
- 一、其ノ他

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定

政務次官 回付 決裁前連帶  
參與官 課名

壹第五四一〇號

起元應(課)名

外務省

決行(決裁)後  
回覽課名

受領番號

智利國新聞記者民間工場見學手關スル件

大臣

委

次官

政務次官

局長

代

高級

參與官

主務課長

副官

佐藤

主務副官

書記官

主務課員

官房御用掛

中村

審案

筆記者

内田

主務局長

受領番號

九六〇

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

連帶

局長

局長

防衛

課長

銃砲

課長

航本糧

課長

航本

課長

航本

課長

陸

軍

(以下陸普)

副官ヨリ海軍省副官、被服本廠長、糧秣  
本廠長、兵器本部、航空本部、兩總務部  
長、憲兵司令部本部長宛通牒

首題ノ件ニ關シ別紙第一ノ者ニ對シ別紙第二  
ノ通民間工場ノ見嚮子ヲ許可セラレタルニ付承  
知相成度

陸普第八四〇二號

昭和拾六年十二月拾四日

昭和拾六年十二月拾四日  
陸軍省  
兵器本部  
航空本部  
兩總務部  
長  
宛  
通  
牒



陸軍

副官ヨリ日本製鐵株式會社、日本水産株式會社、川崎重工業株式會社、住友金屬工業株式會社、鐘ヶ淵紡績株式會社、三菱重工業株式會社、日立製作所、各社長宛

今般來朝セル別紙第二ノ者對以別紙第二ノ日程ニ依リ貴社工場ノ見嚮子ヲ許可セラレタルニ付可然取計ヒ相煩度  
追テ防諜ニ関シテハ留意セラレ度申添フ

陸普第八四〇二號

昭和拾六年七月拾四日

大坂...

次官ヨリ外務次官宛回答

十月二十日附調五秘合第四〇三二號了承  
右ハ御申越ノ通許可セラレタルニ付此段  
回答ス

道テ川崎重工業艦船工場ニ陸軍ニ関係無之ニ付  
申上テ

陸普第八四〇二號

昭和拾六年十二月拾四日



別紙第一

訪日智利國新聞記者

一、エル・デアリアリオ・イルスツラード紙 (El Diario Ilustrado)

副社長 ロドリゴ・アブルト (Rodrigo Abarro)

ニラ・ナシオン紙 (La Nación)

編輯長 ホルヘ・ヴァリアル・ジヨンス (Jorge Vial Jones)

三、ラ・オピニオン紙 (La Opinión)

客員、著述家 アウグスト・イグレシヤス (Augusto Iglesias)

四、ラ・オーラ紙 (La Hora)

記者 マリオ・プラネ (Mario Planet)

五 エル・チレノ紙 (El Chileno)

記者 カルロス・バリ・シルヴァ (Carlos Barry Silva)

六 エル・インバルシアル紙 (El Imperial)

記者 グスタヴォ・ラバルカ (Gustavo Labarca)

別紙第二

智利國新聞記者一行見學日程

月 日	見學時刻	會 社 名	見 學 工 場
十一月廿一日	午前	日本製鐵株式會社	八幡製鐵所
十一月廿一日	午後	日本水產株式會社	戶畑工場
十一月廿六日	午前	住友金屬工業株式會社	製鋼所
十一月廿六日	午後	鐘ヶ淵紡績株式會社	淀川工場
十二月四日	午後	三菱重工業株式會社	名古屋航空機製作所
十二月八日	午前	株式會社日立製作所	助川工場

秘

調五祕令第四〇二二號

昭和十六年十月二十日

陸軍次官殿

外務次官

別紙添附

16.10.21

陸軍省 16.10.24 防衛課

16.10.21 軍務課

陸軍省 16.10.24 銃砲課

陸軍省 16.10.22 銃砲課

外務省 官

智利國新聞記者ニ便宜供與方依頼ノ件

智利國新聞記者別紙記載ノ六名ハ外務省ノ招聘ニヨリ我國初メ東亞ノ實情視察研究ノ爲來朝セルモノナル處一行今回ノ旅行ニ對シテハ本省ニ於テ其ノ趣旨ニ鑑ミ種々指導及便宜ヲ供與シ居レルニ付右御諒承ノ上左記會社ノ一場ノ見學許可方特ニ御配意相煩度日程表一部相添へ此段御依頼申進ス

十一月二十四日午前 八幡製鐵所

外務省

航空手ニ課  
人形砲課  
岩打課  
防衛課

昭和十六年十月廿五日

陸軍省軍務局軍務課

意見見玉急承り也  
也テ有得トニテハ可成許可可也  
意向ニ任ヤレ候ノ

軍務課 作中

密關係ヲ除キ差支ナク意見見  
十一月四日  
航本ノ二課

秘

調五祕合第四五二二號

昭和十六年十月二十日

陸軍次官

智利國新聞記者

智利國新聞記者別紙記載、  
亞ノ實情視察研究ノ爲來朝  
テハ本省ニ於テ其ノ趣旨ニ  
付右御諒承、上左記會社ノ一場ノ見學許可方特ニ御願  
程表一部相添へ此段御依頼申進ス

十一月二十四日午前 八幡製鐵所

外務省

別紙添附

陸軍省  
16.10.22  
237

Handwritten notes on a piece of paper, including the name 'S. J. ...' and other illegible characters.

軍用資源秘保保護法ニ依ル秘保個體  
ヲ除キ差支ナキ意見  
軍の課内  
兵器局銃砲課  
長 守保

封

昭和十六年十月二十日

陸軍省 第四〇二一號

代 藤 次 官

限 時 送 附

十一月二十三日 午後 日本水産戸畑工場

十一月二十六日 午後 川崎造船所

十一月二十八日 午前 住友金屬工業大阪工場 製鋼所

午後 鐘紡淀川工場

十二月一日 午後 三菱重工業航空機工場

十二月八日 午前 日立製作所 助機工場

本信送付先 陸軍省、海軍省

記 者 マリオ・プランネ (Mario Planet)

記 者 カルロ・パリス (Carlo Paris)

記 者 インバル・アル (Inbal Al)

記 者 グスタフ・グレン (Gustaf Glenn)

外 務 省



本館發行式 勳章賞 新章賞

十二日 式 日平館 日立機油社  
十二日 五 日平館 三菱重工業 航空機工業  
日平館 養蜂機川工業  
十一日 二十八日 日平館 日武金機工業 大畑工業  
十一日 二十六日 日平館 川崎鐵器社  
十一日 二十四日 日平館 日本水産口歌工業

訪日智利國新聞記者

- 一、エル・デアリオ・イルスツラード紙 (El Diario Ilustrado)  
副社長 ロドリゴ・アブルト (Rodrigo Aburto)
- 二、ラ・ナシオン紙 (La Nación)  
編輯長 ホルヘ・ヴィアル・ジヨンス (Jorge Vial Jones)  
客員、著述家 アウグスト・イグレシナス (Augusto Iglesias)
- 四、ラ・オーラ紙 (La Hora)  
記者 マリオ・プラネ (Mario Planet)
- 五、エル・チレノ紙 (El Chileno)  
記者 カルロス・バリール・シルヴァ (Carlos Barry Silva)
- 六、エル・インバルシアル紙 (El Imparcial)  
記者 グスタヴオ・ラバルカ (Gustavo Lebarca)

訪日智國新聞記者團内地鮮滿北支南支  
視察日程案

九月廿九日(月) 東京

郵船にて横濱着

汽車にて東京驛着 帝國ホテル投宿

晚餐(ホテル)

九月三十日(火) 東京

午前 自由

午餐

午後 外務省訪問

晚餐

十月一日(水) 東京

午前 九〇〇 ホテル出發

宮城遙拜

鈴木子子

一、三〇 明治神宮參拜

靖國神社

午餐

午後 自由

晚餐

十月 二日 (木) 東京

午前 一〇、〇〇 ジヤパンタイムス社及都新聞社訪問

一〇、三〇 朝日新聞社及東京日日新聞社訪問

一、〇〇 報知新聞社及讀賣新聞社訪問

一、三〇 國民新聞社及中外商業新聞社訪問

午餐

午後 五、三〇 同盟通信社訪問

十月 三日 (金) 東京

午前 九、三〇 東京市長訪問

一〇、三〇 國際觀光局訪問

午餐

午後 二、〇〇 國際文化振興會訪問

三、〇〇 日本放送協會訪問

晚餐

十月 四日 (土) 東京

午前

午餐

午後 注射の豫定 (一種痘、コレラ第一回)

晚餐

十月 五日 (日) 東京

自由 (注射の豫定) (チブス第一回)

十月 六日 (月) 東京

自由 (帝室博物館、其他見學)

十月 七日 (火)

午前

近衛首相訪問

豊田外相訪問

午餐

午後

東條陸相訪問

及川海相訪問

伊藤情報局總裁訪問

晚餐

十月 八日 (水)

午前

注射豫定 (コレラ第二回)

午餐

午後

自由 (東京帝國大學見學)

晚餐

十月 九日 (木)

東京

午前

永田國民學校見學

注射豫定一チブス第二回

午餐

午後

水産講習所見學

晚餐

十月十日(金)

午前

片倉製糸大宮工場見學

午餐

午後

王子製紙十條工場見學

晚餐

十月十一日(土)

東京

自由

十月十二日(日)

東京

放送

夜歌舞伎座見學

十月十三日（月）

東京

午前

放送

午後

十月十四日（火）

東京

自由

十月十五日（水）

東京

放送

午前

十月十六日（木）

東京 | 日光

午後

上野發

日光着（金谷ホテル投宿）

十月十七日（金）

日光滞在

十月十八日（土）

日光 | 東京

午後

日光發

十月十九日（日）

東京着

十月二十日（月）

自由  
東京

十月廿一日（火）

東京



十月廿二日（水） 東京→宮ノ下

午後 三、一五 東京發

四五七 小田發着

宮ノ下へ（富士屋ホテル投宿）

十月廿三日（水） 宮ノ下滞在

（日本精神道場見学）

十月廿四日（金） 宮ノ下→京都

午前 一、五七 小田原發

午後 七、五八 京都着（京都ホテル投宿）

十月廿五日（土）

午前 七五二

京都 | 山田 | 鳥羽 | 京都發

一〇三五

山田着

伊勢大神宮參拜

午後 一二二六

山田發

一二四五

鳥羽着

御木本眞珠養殖地見學

午餐 右養殖場

三四六

鳥羽發

六四一

京都着（京都ホテル投宿）

晚餐

十月廿六日（日）

京都 | 下關

午前 九五五

京都發

午後 九〇五

下關着

一〇三〇 下關發（關釜連絡船へ）

十月廿七日（月） 下關―釜山―京城

午前六〇〇 釜山着

六五〇 釜山發

午後二〇五 京城着（朝鮮ホテル投宿）

十月廿八日（火） 京城―奉天

午前中 京城視察

午後四四〇 京城發（車中泊）

十月廿九日（水） 安東―奉天

午前二〇五 安東着（旅券及荷物検査）

二三五 安東發

九一〇 奉天着（ヤマトホテル投宿）

十月三十日（木） 奉天

奉天視察

十月卅一日(金) 奉天→新京

午前 撫順視察

午後 四〇二 奉天發

八一五 新京着(ヤマトホテル投宿)

十一月一日(土) 新京

新京視察

十一月二日(日) 新京

吉林並大豐滿ダム視察

十一月三日(月) 新京→哈爾濱

午前 九二五 新京發

午後 三四八 哈爾濱着

十一月四日(火) 哈爾濱

哈爾濱視察

十一月五日(水) 哈爾濱→奉天

	午後 一〇〇二	哈爾濱發 (奉天へ向ふ)
十一月	六日 (木)	奉天―北京
	午前八時	奉天着
	午後 四三五	奉天發 (北京へ向ふ車中泊)
十一月	七日 (金)	北京
	午前 四三五	山海關着 (旅券及荷物検査)
	五一〇	山海關發
	午後 一四〇	北京着 (グラント、ホテル投宿)
十一月	八日 (土)	北京滞在
十一月	九日 (日)	北京滞在
十一月	十日 (月)	北京―天津
	午後 一、一〇	北京發
	四〇二	天津着 (アスター・ハウス・ホテル投宿)

十一月十一日 (火)	天津 - 大連
十一月十二日 (水)	天津發 (大連へ向ふ船中泊)
十一月十三日 (木)	大連
十一月十四日 (金)	大連着 (ヤマトホテル投宿)
十一月十五日 (土)	大連 - 上海
十一月十六日 (日)	大連發 (船中泊)
十一月十七日 (月)	大連汽船 丸
十一月十八日 (火)	航船中 (船中泊)
十一月十九日 (水)	上海
	上海着 (ガヤイホテル投宿)
	上海滞在

適當の日に南京を視察す

十一月二十日(木) 上海滞在、適當の日に南京を視察す

十一月廿一日(金) 上海→長崎

上海發(東亞海運汽船による)

十一月廿二日(土) 長崎

長崎着(新長崎ホテル投宿)

十一月廿三日(日) 長崎→八幡

午後 二四〇 長崎發

六〇七 博多着(博多ホテル投宿)

十一月廿四日(月) 福岡→八幡→戸畑→下關

午前 九一二 博多發

一〇三六 八幡着

八幡製鐵所見學

午後 二三二 八幡發

二四三 戸畑着

午後 三〇〇 日本水産戸畑工場見學

四四三 戸畑發

五一〇 門司着

五三〇 下關着 (山陽ホテル投宿)

十一月廿五日 (火) 下關-神戸

午前 九二五 下關發

午後 七二四 三宮着 (オリエンタル・ホテル投宿)

十一月廿六日 (水) 神戸

午前 縣知事訪問

市長訪問

大同燐寸九江工場見學

午餐

川崎造船所見學

其他觀光

午後



十一月廿七日（木）

晚餐

神戸→大阪

午前 一〇一三

神戸（三宮驛）發

一〇四八

大阪着（新大阪ホテル投宿）

府知事訪問

市長訪問

午餐

午後

大阪朝日及大阪毎日新聞社訪問

晚餐

十一月廿八日（金）

大阪

午前

住友金屬工業大阪工場見學

午餐

午後

鐘紡淀川工場見學

晚餐

十一月廿九日（土）

大阪

自由觀光

午餐

寶塚レビュー

等見物

人形芝居（文樂）

晚餐

大阪→奈良

十一月三十日（日）

午前 一〇〇一

湊町發（奈良ホテル投宿）

一〇四七

奈良着

午後 一二二六

奈良發

二二二〇

畝傍着

橿原神宮參拜

四〇五

畝傍發

四四五

奈良着

十二月一日（月）

晚餐

奈良・京都

市内觀光

午餐

午後 二、四、四

奈良發

三、五、九

京都着（都ホテル投宿）

晚餐

京都

十二月二日（火）

午前 九、三、〇

京都御所御苑拜觀

午前 一〇、〇、〇

平安神宮參拜

一〇、三、〇

府知事及市長訪問

午餐

午後 二、〇、〇

元離宮二條城拜觀

三、〇、〇

名蹟見物

十二月 三日 (水)

晚 餐  
京 都

午前一〇〇〇 川島西陣織物工場見學

一一〇〇 武德會

午 餐

午後 市内外觀光

晚 餐

十二月 四日 (木) 京都 1 名古屋

午前 八四九 京都發

一一四六 名古屋着 (觀光ホテル 投宿)

午 餐

午後 縣知事及市長訪問

新聞社訪問

晚 餐

十二月 五日 (金) 名古屋